



## 障害者と社会をつなぐ 「そば殻枕」

障害を持つ方への就労支援や、福祉施設への花苗や車いすの寄贈、返礼品を選ぶことのできる社会貢献があります。

そんな思いやり型返礼品の一つ、「そば殻枕」を制作している前橋市第二福祉作業所を訪ねました。こ  
こは、心身に障害があるために就職が困難な人を支援する施設。現在17人の利用者が、ホツキス針の箱詰めなどの受注作業やアルミ缶回収などの自主作業を通し、地域の中で自立した生活を送るための訓練を行っています。

自主製品としてそば殻枕を作り始めたのは2003年から。県内の企業からカーテン生地とそば殻の提供を受けたことがきっかけでした。

利用者はそれぞれのペースで、それぞれができる仕事に取り組みます。袋状に縫った生地をひっくり返す人、漏斗（じょうご）を使ってそば殻を袋に詰める人、枕にカバーをかける人。そば殻を運ぶ、そば殻を干すなどの下準備も含めると、たくさんの人の手によって一つの枕が作られています。

細い棒を使って生地の角を整えたり、カバーの細かなシワをアイロンで伸ばしたり。一つ一つの工程に時間はかかりますが、根気よく丁寧に仕事に取り組んでいる姿が印象的です。

「人に使ってもらうものだから、心を込めて良いものを作ろう。その思いは皆が持っています」

作業の様子を温かなまなざしで見守りながら話してくれたのは、新井康法所長。新井所長をはじめとする5人の職員が利用者の活動をサポートしています。

出来上がった商品は福祉ショップや地域のイベント等で販売。利用者には、毎月売り上げや作業量に応じて工賃が支払われます。

「工賃が貰える月末が近づくと、ウキウキして落ち着かなくなる利用者さんもいるんですよ」と新井所長。

返礼品の売り上げは工賃のアップ、そして働く意欲へとつながります。何よりも、全国各地の返礼品の中から自分たちが作った枕を選んでくれた人がいる。その喜びが、彼らの活動を支えていくのです。